

特  
遠  
2978  
261

天保十五

南仙笑林楚満人作

甲辰年春

一勇磁所國芳画

忠孝  
仇討  
憲  
智  
太郎懲惡傳

東都芝神明前

三島守

若挾屋與布梓

愚智太郎懲惡傳 全部六冊あり



詞源

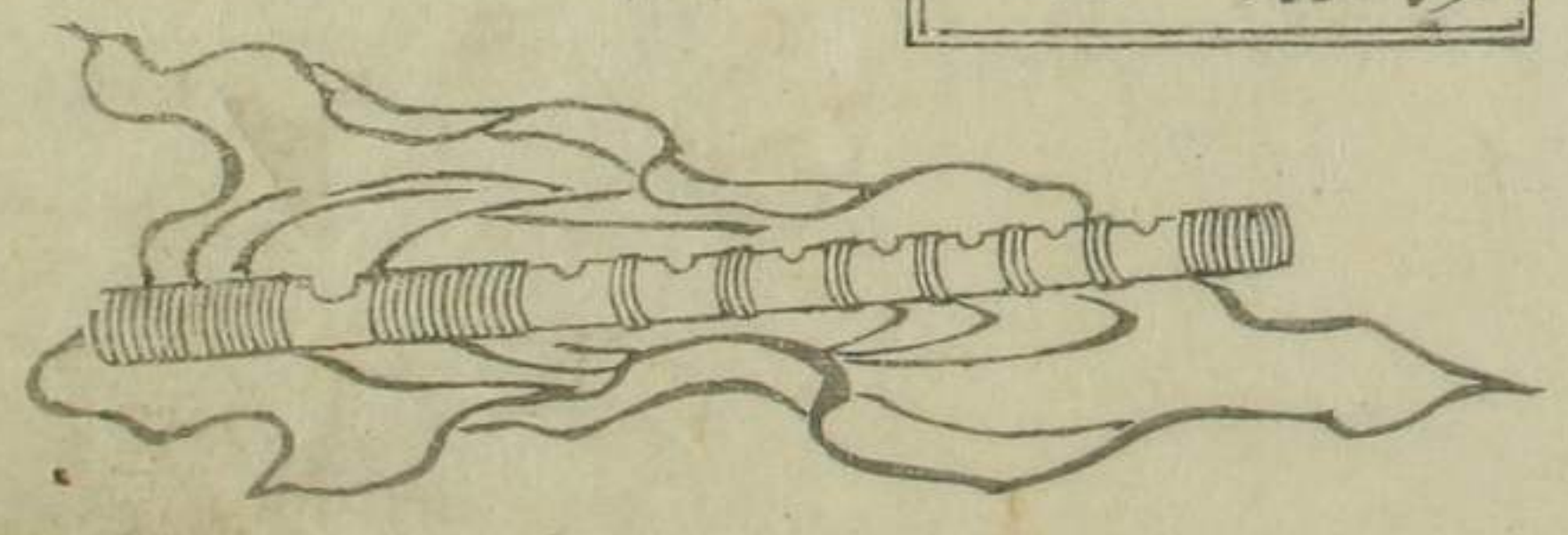
南仙笑

楚満人作

八重垣家の  
車器  
雲龍の  
名笛

# 卷之壹

今昔雲龍の田村とら小樵夫とほて世とゆる  
源仲とりのあり一時妻の落とりの小  
ちり死に本然きりに死にけり由も或る小樵夫  
さし進道もいほふ水もあはまはけりや  
を名もいほふそこの本の空よりと清らなるはほれ  
あぐまをたるそこの本の空よりと清らなるはほれ  
まはけりりともいほふ水もあはまはけりや  
何れもいほふそこの本の空よりと清らなるはほれ  
としほのひよりと上りてはけりや  
たきあろうのそこの本を眼をむきんれ







愚智

愚智太郎 権郎

出雲の國 山田村の住人

龍作の子 終小

白波の頭とがり

陸奥岩城山

住人

的眞の後室

小千巻

肉芝仙子 御られ 後小

大徳ふさぐさの来づ

芦名の後室

雲井後 神道禪師

つれて併

三

三



地仙の變身

石州銀山の辺

沢利の令士

的寫式部亟が子  
十三郎孝利

伊津志可仁秋者早九毛  
立田姫楯似色於見壽留加惠流傳  
高木四季百首之内



大社不詣で暗く赤繩

つかり為小仇を  
善く名次

△後世よこら共家長く昌ら

十三郎孝利

榎村女子

志のつらき女

雪笠

肉芝仙孝子を  
脚けて仇討  
討しめたり



巻の貳



左の... 右の... 上の... 下の... 各方向の漢文注釈



左の... 右の... 上の... 下の... 各方向の漢文注釈



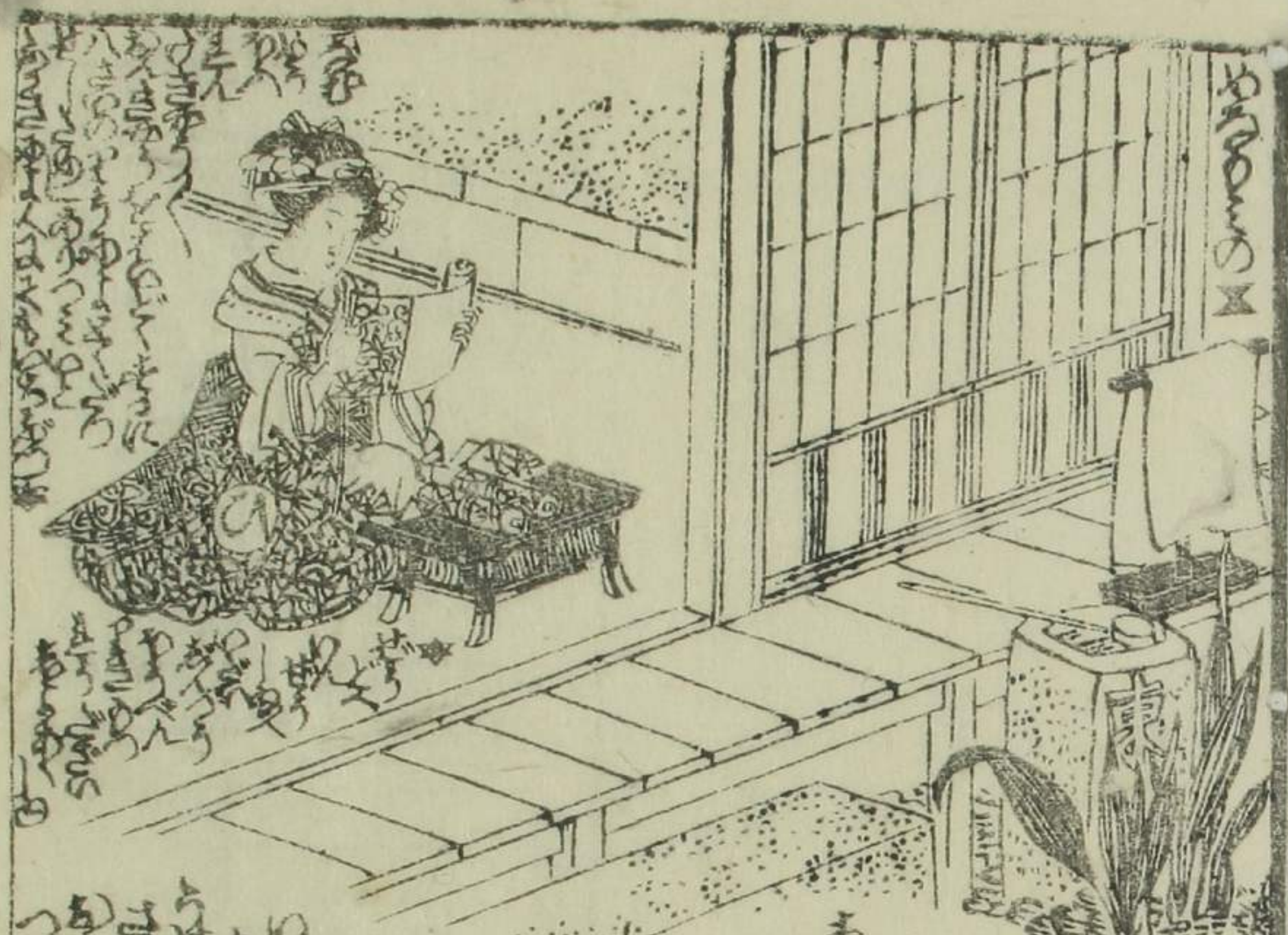


Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, filling the lower two-thirds of the page. The text is arranged in approximately 15-20 horizontal lines, with some lines being longer than others, creating a dense block of writing.



Handwritten text in a cursive script, positioned to the right of the illustration of the two men. It consists of about four lines of text.





此の物語は、昔の事だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。

此の物語は、昔の事だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。



此の物語は、昔の事だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。  
 女は静かに本を読んでいる。  
 窓の外には花が咲いている。  
 茶の湯は熱い。  
 静かな朝の光景だ。  
 女は微笑んでいる。  
 本の世界に没頭している。  
 静寂が部屋を包んでいる。  
 窓の格子が光を透かしている。  
 女は優雅な姿勢で座っている。  
 本は彼女の心の友だ。  
 静かな生活の一場面だ。





つぎかきまてくるがその  
けりするの中そり  
あつちのうえ  
このひまきまきえ  
うせり  
ゆき  
つがら  
まの  
さあ

つぎかきまてくるがその  
けりするの中そり  
あつちのうえ  
このひまきまきえ  
うせり  
ゆき  
つがら  
まの  
さあ

＊このひまきまきえ  
うせり  
ゆき  
つがら  
まの  
さあ

# 二十四孝童子鑑

一勇齋國芳筆

廿四救續

小供成知久一給後やあまき  
かえれおまげふはるる物  
ゆき  
まの  
さあ

# 三十六 童女教訓鏡

一勇齋國芳筆

児女の教訓もおね  
ゆき  
まの  
さあ

# 東千代紙 御進物箱入數品

風流繪半切

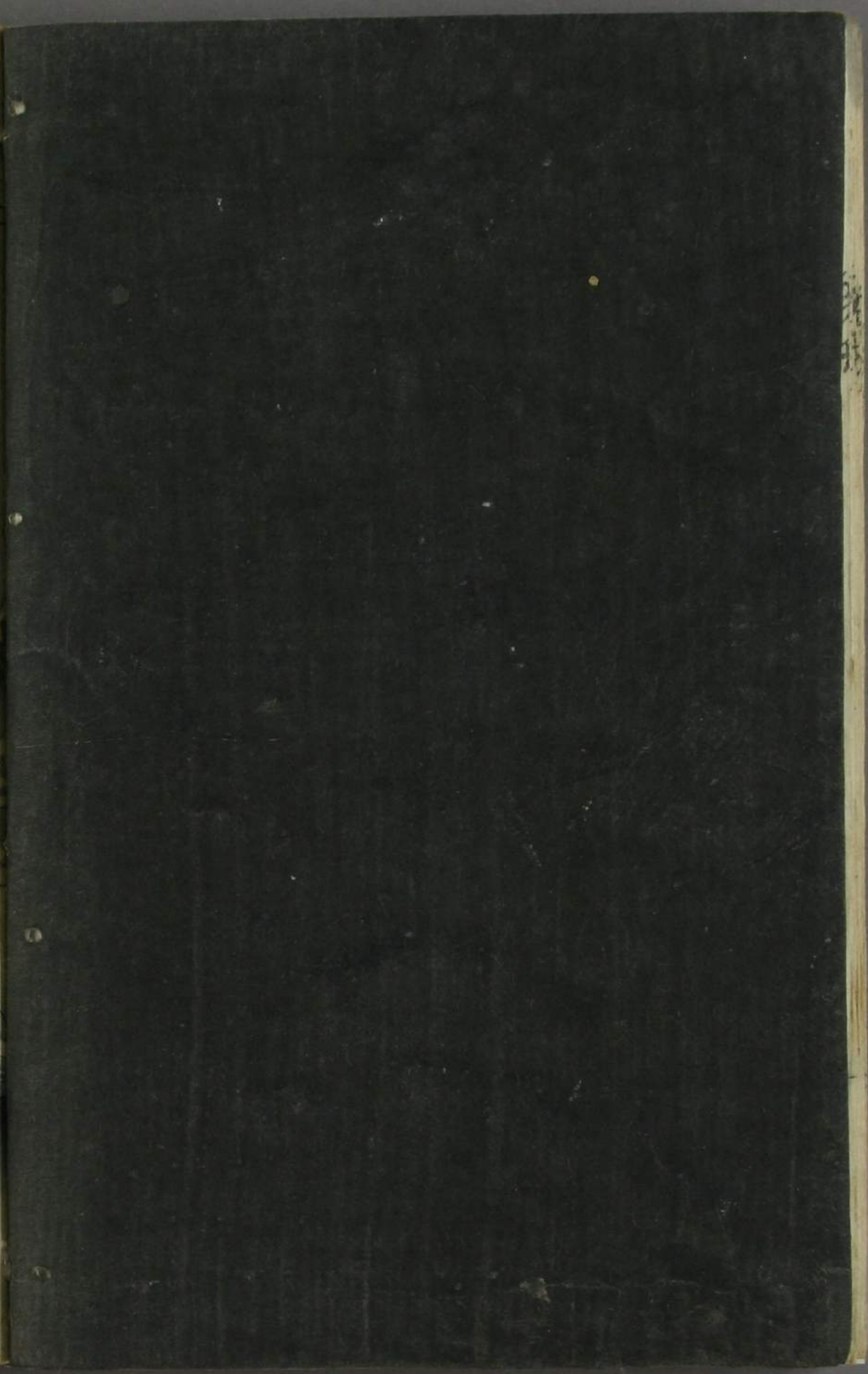
右きふ  
まの  
さあ



南山笑楚滿人作  
一角力齋國芳画

中

中





天保志るふ

るの辰おたる

司了神のあ

若くは屋

共一たん

忠孝あぶぢ

杉海ちたる

徽心何く傳

南仙せし

梵定まはる

Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue. The text is densely packed and covers most of the upper half of the page.



Handwritten text in a cursive style, located above the illustration. The text is arranged in vertical columns and appears to be a continuation of the narrative.





あけの  
うらやま  
さかき  
あけの  
うらやま  
さかき



あけの  
うらやま  
さかき  
あけの  
うらやま  
さかき

国神山大蛇之霊

十三







其ののりたははひたのものをたうちとせりて  
 せのりたりてとせりてはるいせりて  
 せんそくさむのせんせりてはるい  
 きんせりてはるいせんせりてはるい  
 いせりてはるいせんせりてはるい  
 かりてはるいせんせりてはるい  
 せんせりてはるいせんせりてはるい  
 うちののりたははひたのものをたうちとせりて  
 せんそくさむのせんせりてはるい  
 きんせりてはるいせんせりてはるい  
 いせりてはるいせんせりてはるい  
 かりてはるいせんせりてはるい  
 せんせりてはるいせんせりてはるい

# 春川英笑画



# 南仙笑禁滿作る

華畊

仙橘書

春川英笑  
 南仙笑禁滿作る  
 華畊  
 仙橘書

其ののりたははひたのものをたうちとせりて  
 せんそくさむのせんせりてはるい  
 きんせりてはるいせんせりてはるい  
 いせりてはるいせんせりてはるい  
 かりてはるいせんせりてはるい  
 せんせりてはるいせんせりてはるい  
 うちののりたははひたのものをたうちとせりて  
 せんそくさむのせんせりてはるい  
 きんせりてはるいせんせりてはるい  
 いせりてはるいせんせりてはるい  
 かりてはるいせんせりてはるい  
 せんせりてはるいせんせりてはるい



春川英笑  
 南仙笑禁滿作る  
 華畊  
 仙橘書

十三年...  
 十月...  
 十一月...  
 十二月...  
 正月...  
 二月...  
 三月...  
 四月...  
 五月...  
 六月...  
 七月...  
 八月...  
 九月...  
 十月...  
 十一月...  
 十二月...



十三日...  
 十四日...  
 十五日...  
 十六日...  
 十七日...  
 十八日...  
 十九日...  
 二十日...  
 二十一日...  
 二十二日...  
 二十三日...  
 二十四日...  
 二十五日...  
 二十六日...  
 二十七日...  
 二十八日...  
 二十九年...

十三日...  
 十四日...  
 十五日...  
 十六日...  
 十七日...  
 十八日...  
 十九日...  
 二十日...  
 二十一日...  
 二十二日...  
 二十三日...  
 二十四日...  
 二十五日...  
 二十六日...  
 二十七日...  
 二十八年...



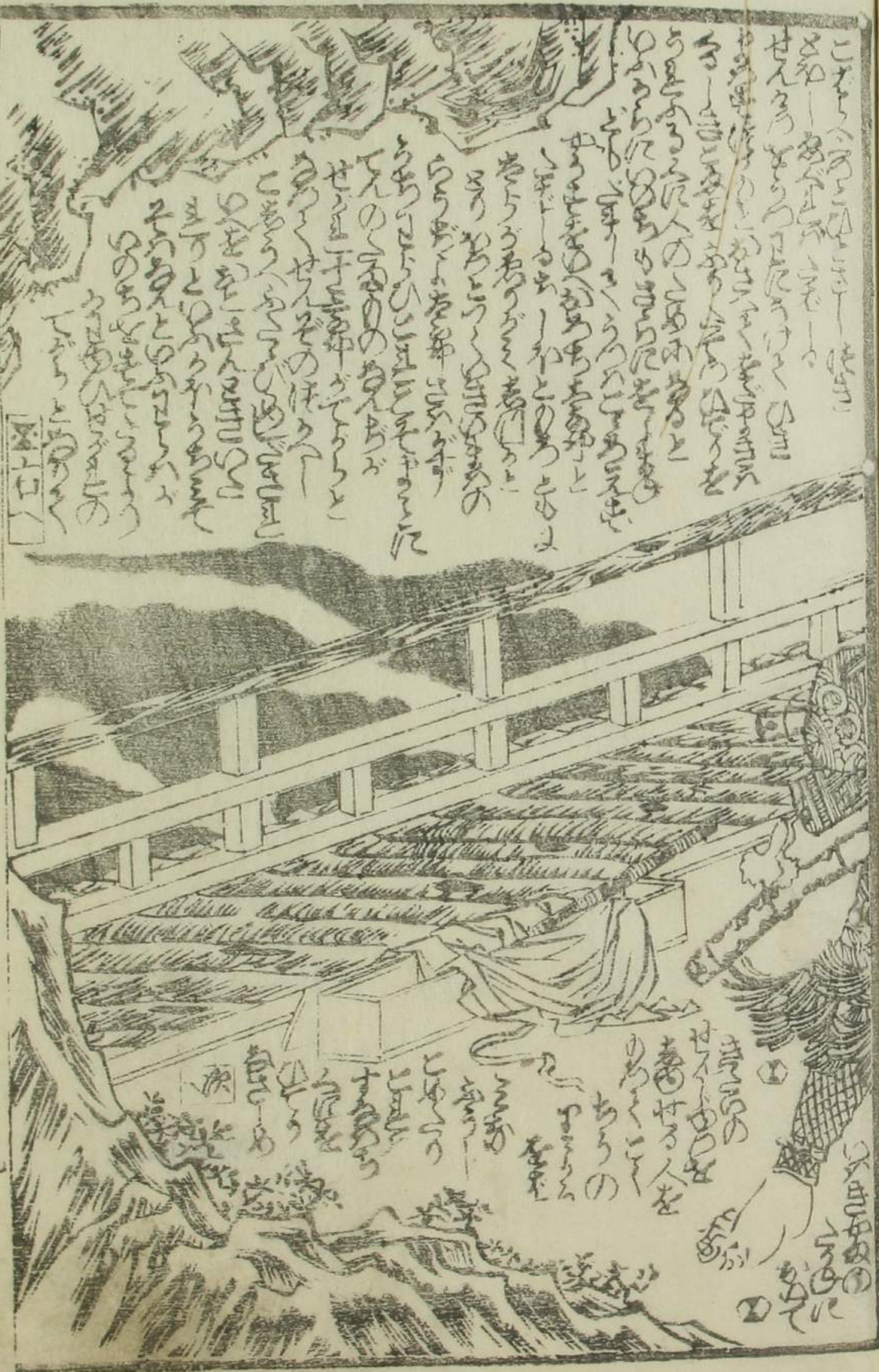
二十九日...  
 三十日...  
 三十一日...  
 三十二日...  
 三十三日...  
 三十四日...  
 三十五日...  
 三十六日...  
 三十七日...  
 三十八日...  
 三十九日...  
 四十日...  
 四十一日...  
 四十二日...  
 四十三日...  
 四十四日...  
 四十五日...

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a list of items, arranged in vertical columns. The text is densely packed and covers most of the page area.



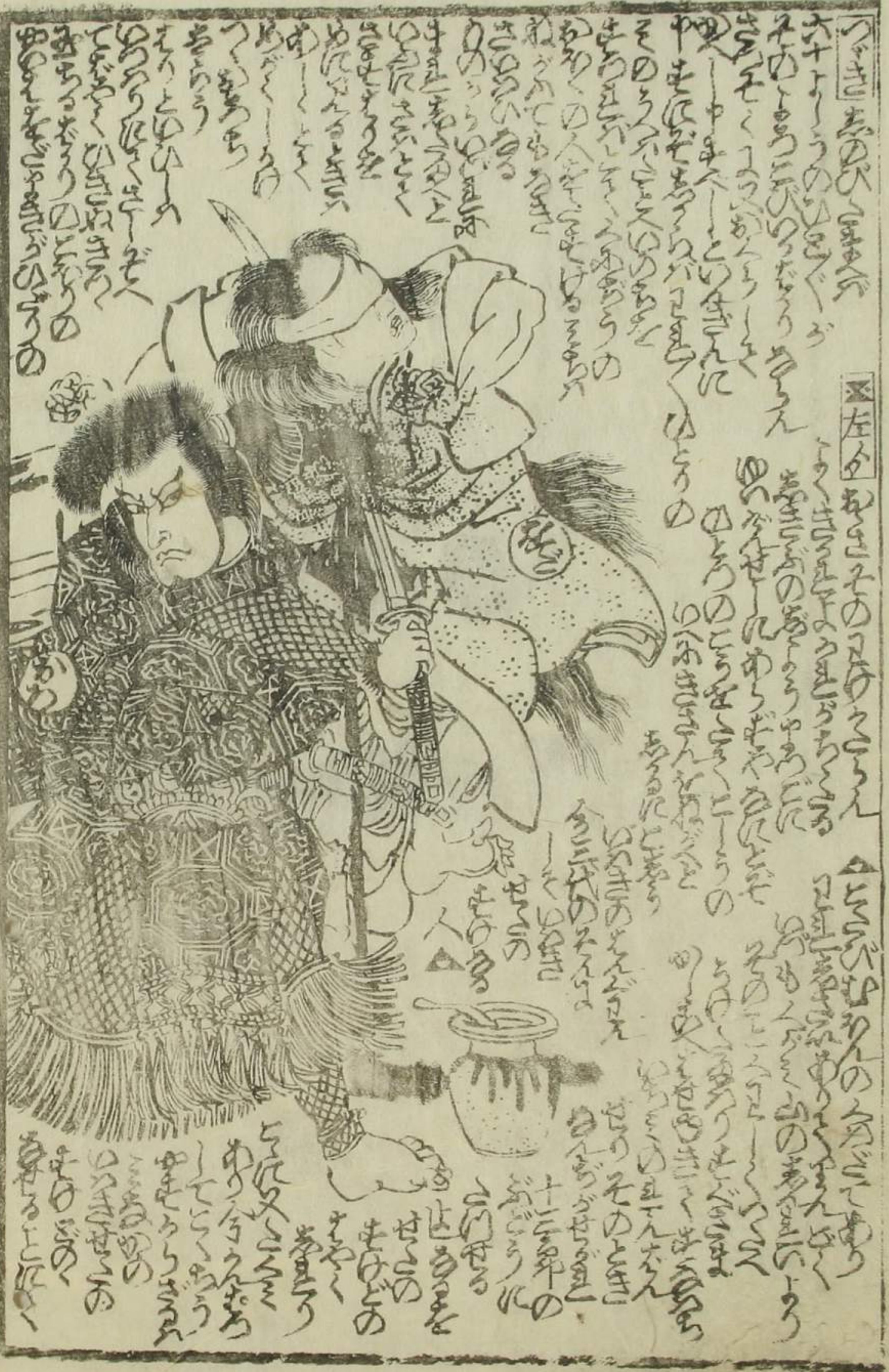
Handwritten text in a cursive script, continuing the commentary or list from the previous page. The text is arranged in vertical columns and is interspersed with illustrations.





Handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and includes characters such as 山, 木, 草, and 水, possibly describing the landscape or the scene.

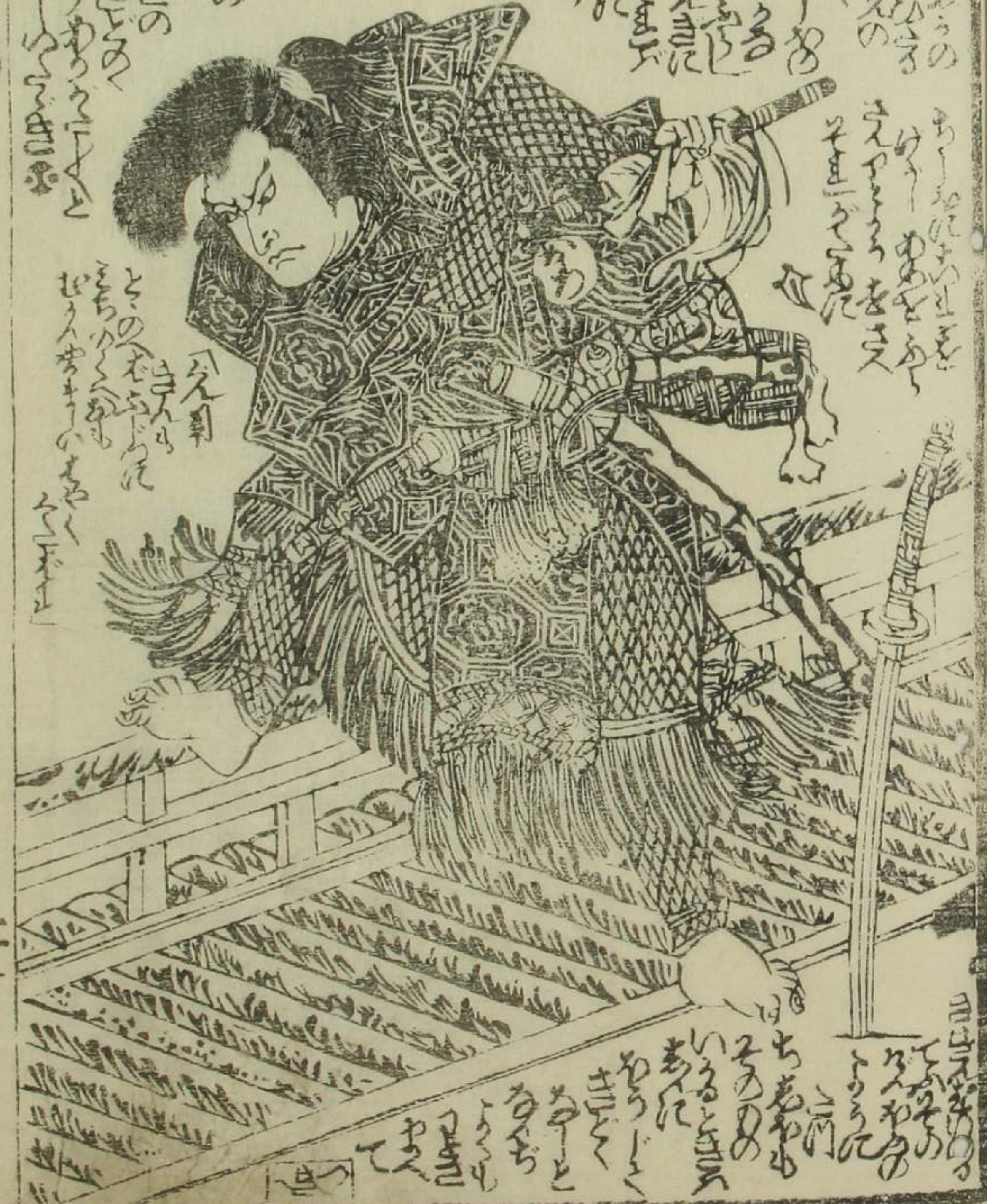
Additional handwritten Japanese text located below the main illustration, continuing the narrative or providing further details about the scene depicted.



Handwritten Japanese text at the top of the page, likely a list of names or titles related to the samurai warrior or the scene.

Handwritten Japanese text at the bottom of the page, continuing the list of names or providing further details about the scene.

The left page contains approximately 12 columns of handwritten Japanese text, written in a cursive style. The text appears to be a narrative or commentary related to the illustration below.



At the bottom of the left page, there are several lines of handwritten text, likely providing additional context or a signature for the illustration.

The top section of the right page features handwritten text. This text likely serves as an introduction or a specific chapter heading for the scene depicted in the illustration below.



The bottom section of the right page contains handwritten text, which likely continues the narrative or commentary from the upper portion of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several columns, with some lines starting with a large initial character. The script is dense and difficult to decipher without a key.



Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a note related to the illustration. The text is written in a similar cursive script to the top of the page.





東都之神明前  
若狭屋與市板

下



東洋画圖四

了保十五

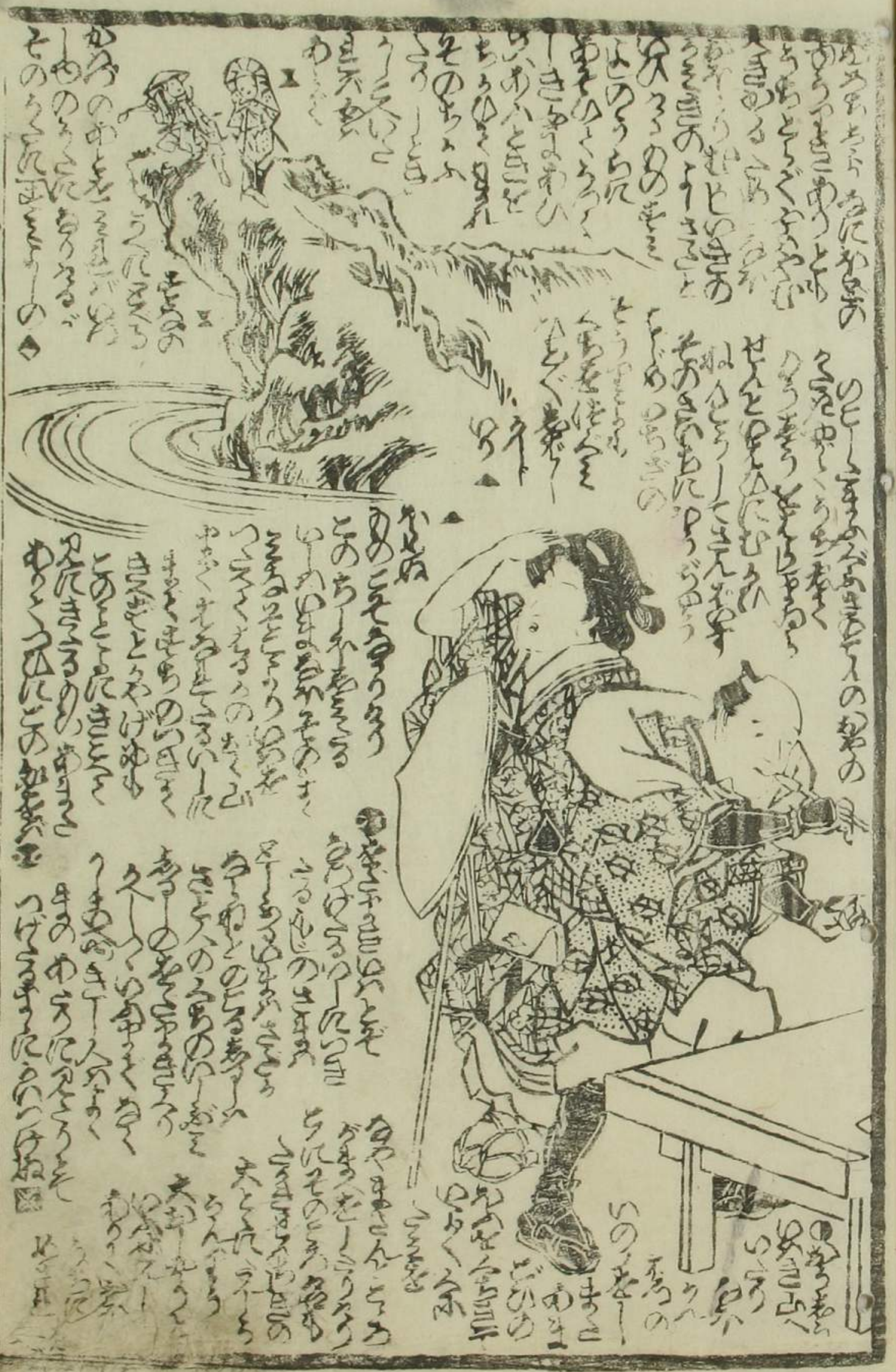
辰の喜

我儂人きく  
團より画

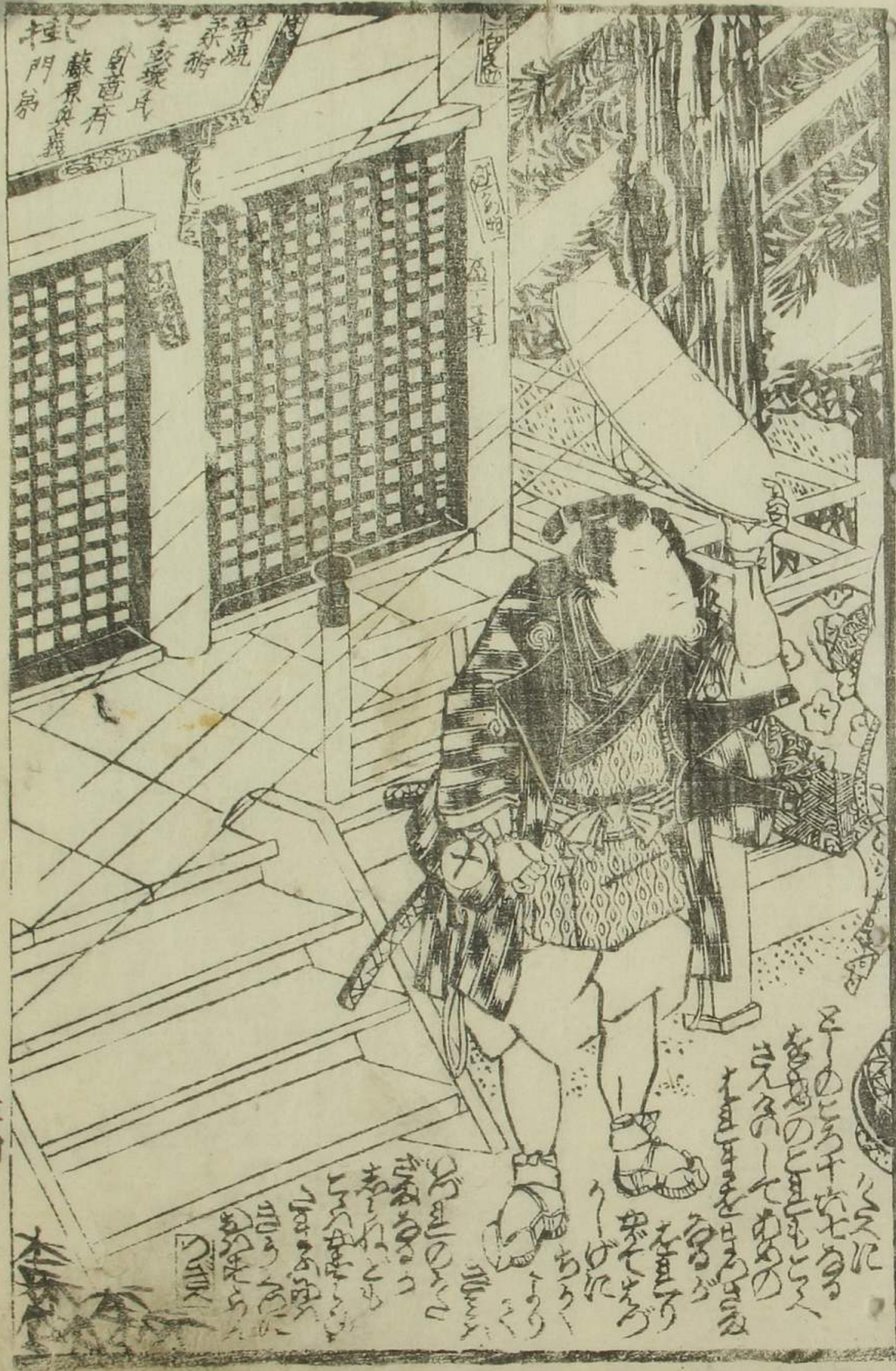
わろあこらう  
未知右所あや恋信

東坊芝神明前

若さ屋与市板







寄流  
蘇原  
自道  
蘇原  
門第

平の...  
...  
...

...  
...  
...



...

...

...

...



六の巻

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It appears to be a detailed account or a narrative, possibly related to the scene depicted in the illustration on the adjacent page.

廿七

廿五



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text. This block of text is positioned above the illustration and appears to be the beginning of a scene or a specific dialogue.

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text. This block of text is positioned below the illustration and continues the narrative or dialogue from the scene above.

Handwritten text in the top left corner of the left page, consisting of several lines of cursive script.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small illustration of a bowl and a teapot.

Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

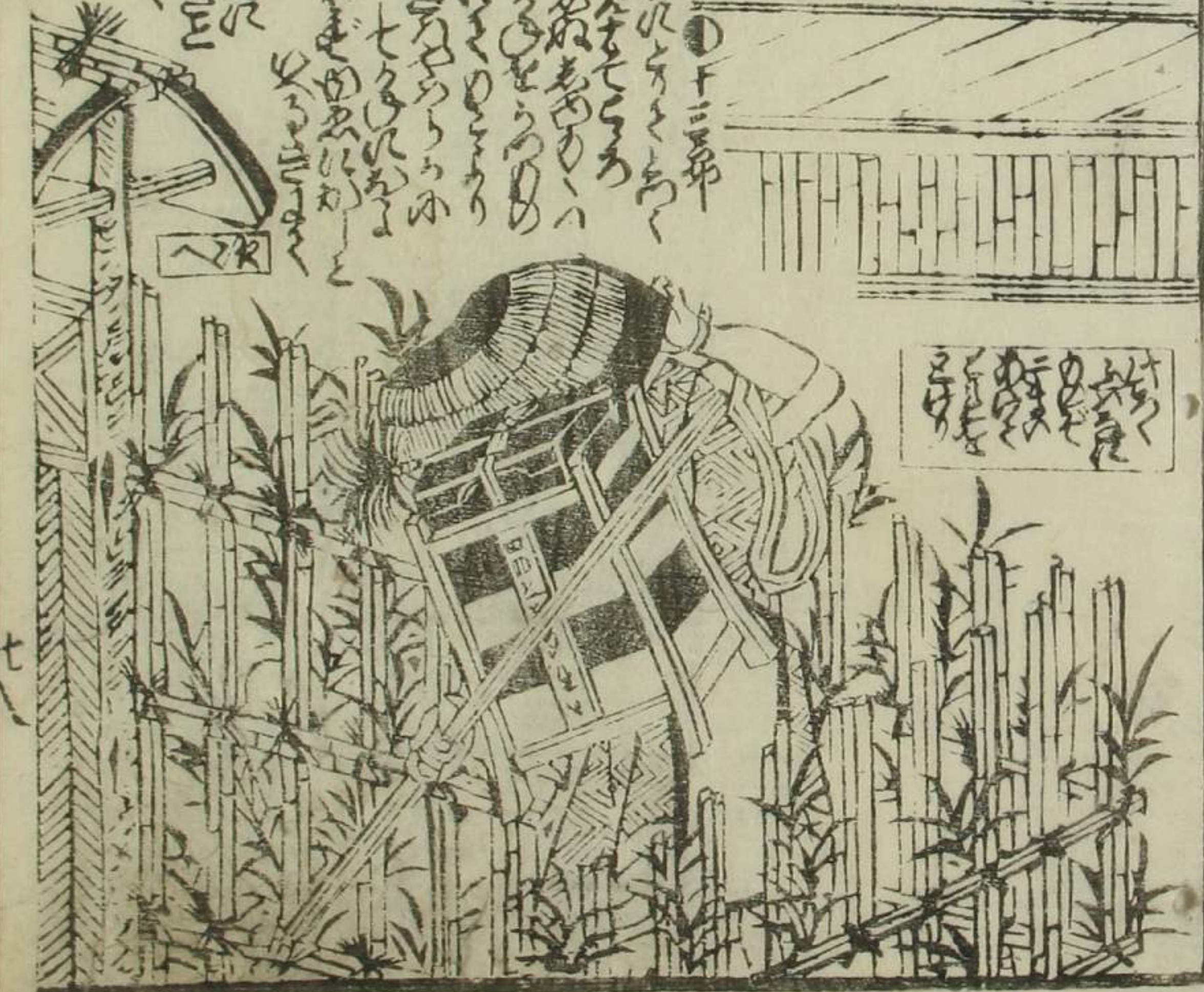
Handwritten text in the middle right section of the right page, continuing the cursive script.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, including a small illustration of a bowl and a teapot.



毒草三  
重垣  
下  
...  
...  
...



津出雲  
...  
...  
...



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the bottom of the left page.

南仙舍楚滿人作る 春齋英笑画

南仙舍楚滿人作る 春齋英笑画  
 此の書は南仙の著する所なり。南仙は楚人にして、英笑の號あり。其の書は英笑の事あり。英笑は南仙の弟なり。南仙は英笑を愛し、其の行状を記して、此の書を作らざり。南仙は英笑を愛し、其の行状を記して、此の書を作らざり。南仙は英笑を愛し、其の行状を記して、此の書を作らざり。



華明仙橋

繪本武勇英名記

全四冊

壽菴自笑撰

一勇齋國芳画

忠孝 仇討 愚心 智太郎 懲惡傳

全六冊

南仙笑楚滿人作

一勇齋國芳画

二十四孝童子鑑

朝櫻樓國芳筆

大錦画廿四枚續

虫齒丸妙藥

一包十七羽

地本錦繪類

東都芝神明前三島町 若狹屋與市版

